

「保育サービスの質に関する調査研究」における教科目の見直し

A案（各養成校の独自性を尊重）				
現行		改定案		内容及び趣旨
教科目	単位数	教科目	単位数	
教育原理	2	教育原理	2	内容の追加…小学校との連携を含む。 ⇒保育所保育指針の改定に伴うもの。
保育原理	4	保育原理	2	単位数の削減。 ⇒保育者の責務や専門性にかかわる領域を分離。
		保育者論	2	科目の新設。 ⇒保育者の倫理及び責務や専門性にかかわる領域を独立。
発達心理学	2	発達心理学	2	科目の統合。 ⇒心理学にかかわる専門知識について、発達とその支援の両面から専門的に学ぶ。現行の保育士養成課程の「教育心理学」のシラバスに挙げられている2. 発達、3. 学習、4. 知的能力と人格は発達心理学で学ぶ。また、5. の集団と個人については、教育原理、保育原理で学ぶ。
教育心理学	2			
小児保健	5	小児保健	5	科目の統合。 ⇒乳幼児の保健について、心身の両面から総合的に学ぶ。小児保健の中に、現行の精神保健における学習内容（心身の健康に関する学習）を組み込む。この科目では、医学的根拠に基づき、子どもが心身ともに健康で安全な生活を送ることのできる保育を実践する上で必要な知識と技術を学ぶ。
精神保健	2			
家族援助論	2	家庭支援論	2	科目名の変更。 ⇒一般的に通用している用語にする。
		計画と評価 (保育課程論 (仮))	2	科目の新設。 ⇒保育所保育指針の改定に伴うもの。保育所における保育課程・指導計画、養護系・障害系施設における自立支援計画など、保育士が働くいずれの領域においても計画の作成と実践の評価が行われることを学習する。
小児栄養	2	小児栄養	2	授業形態の変更。 ⇒演習から講義に変更する。
保育実習Ⅱ/Ⅲ	2	保育実習Ⅱ/Ⅲ	3	単位数の増加…事前事後指導を含む。 ⇒実習指導の充実を図る。
総合演習				必修科目から除外。 ⇒幼稚園教諭養成課程においても必修科目から外れるなど、必要性が低下していることから。
体育に関する講義と実技	2			教養科目の限定を外す。 ⇒養成施設の独自性をより保証するため。
選択必修	8		11	⇒各校における科目の大綱化、独自性を尊重する。

B 案 (児童福祉にかかわる知識・技能をより重視し、養成の共通基盤を強調)				
		地域福祉	2	科目の新設。 ⇒保育士が働くいずれの領域においても、施設内だけでなく、地域に目を向けて協働していくことの重要性が高まっていることを背景として、児童福祉施設の地域社会（コミュニティ）における意義と役割について学ぶ。
保育原理	4	保育原理	2	単位数の削減。 ⇒保育者の責務や専門性にかかわる領域を分離。
		保育者論	2	科目の新設。 ⇒保育者の倫理及び責務や専門性にかかわる領域を独立。
発達心理学	2	発達心理学	2	科目の統合。 ⇒心理学にかかわる専門知識について、発達とその支援の両面から専門的に学ぶ。現行の保育士養成課程の「教育心理学」のシラバスに挙げられている2. 発達、3. 学習、4. 知的能力と人格は発達心理学で学ぶ。また、5. の集団と個人については、教育原理、保育原理で学ぶ。
教育心理学	2			
小児保健	5	小児保健	5	科目の統合。 ⇒乳幼児の保健について、心身の両面から総合的に学ぶ。小児保健の中に、現行の精神保健における学習内容（心身の健康に関する学習）を組み込む。この科目では、医学的根拠に基づき、子どもが心身ともに健康で安全な生活を送ることのできる保育を実践する上で必要な知識と技術を学ぶ。
精神保健	2			
		計画と評価 (保育課程論 (仮))	2	科目の新設。 ⇒保育所保育指針の改定に伴うもの。保育所における保育課程・指導計画、養護系・障害系施設における自立支援計画など、保育士が働くいずれの領域においても計画の作成と実践の評価が行われることを学習する。
小児栄養	2	小児栄養	2	授業形態の変更。 ⇒演習から講義に変更する。
社会福祉援助技術	2	相談援助Ⅰ	1	科目の新設。 ⇒児童福祉の現場における保護者支援のスキルの必要性が高まっていることを背景に、相談援助Ⅰでは、主に保護者支援のスキルについて学び、相談援助Ⅱは、現行の社会福祉援助技術を名称変更し、主としてソーシャルワークスキルについて学ぶ。相談援助Ⅰと相談援助Ⅱの内容の連続性を確保する。
		相談援助Ⅱ	2	
保育実習Ⅱ/Ⅲ	2	保育実習Ⅱ/Ⅲ	3	単位数の増加…事前事後指導を含む。 ⇒実習指導の充実を図る。
総合演習	2	保育実践演習	2	科目名と内容の変更。 ⇒人間の権利と福祉にかかわる実践研究を行う。保育士養成課程での学びの全体を振り返る。実践力の養成を充実させる。また幼稚園教諭養成課程との整合性を図る。
		日本国憲法	2	教養科目の指定。 ⇒保育にかかわる教養の教育をより充実させる。また幼稚園教諭養成課程との整合性を図る。
		外国語コミュニケーション	2	
		情報機器の操作	2	
選択必修	8		6	⇒単位数の減。必修科目増のため。

新設教科目の目標（案）

地域福祉

<目 標>

1. 現代社会における地域福祉の意義、理念について理解する。
2. 地域福祉の法体系、制度及び行財政の趣旨を理解する。
3. 地域福祉の発展過程や推進方法について理解する。
4. 保育士として、地域福祉にかかわる組織、機関、団体及び専門職や地域住民との協働について学ぶ。
5. 児童福祉施設の地域社会における意義と役割について理解する。
6. 地域での生活を支える地域福祉サービスの実際とこれからの課題、あり方及び保育士の役割について理解する。

保育者論

<目 標>

1. 現代社会における保育士の役割について理解する。
2. 保育士として求められる資質について理解する。
3. 保育士にかかわる法律について理解する。
4. 保育士の倫理及び責務について理解する。
5. 児童福祉の専門職としての保育士の専門性について理解する。
6. 保育士自らの課題の克服や子どもや家庭、地域に対してよりよい支援を提供するためスーパービジョンの必要性、意義、機能、方法について理解する。

計画と評価【保育課程論(仮)】

<目 標>

1. 保育所、児童福祉施設等における保育の計画に関する基本的視点を理解する。
2. 保育所における保育課程と指導計画に関して理解する。
3. 児童福祉施設等（保育所以外）における援助計画に関して理解する。
4. 保育の計画の作成方法、計画の展開について学ぶ。
5. 記録などを通じて、保育の計画に基づく実践を振り返り、保育士や施設の自己評価を行うことを理解する。
6. 自己評価を踏まえた保育実践の改善の必要性、保育の質の向上と社会的責務について理解する。

相談援助

<目 標>

1. 保育士の専門性を生かした保護者支援の意義と基本を理解する。
2. 保護者支援の内容を学ぶ。
3. 保護者支援におけるアプローチの種類、概要、方法を学ぶ。
4. 保護者支援のための社会資源の活用・調整・開発、ネットワーキング、アウトリーチについて理解する。
5. 事例やロールプレイを通して、保護者支援の実際や援助者としての視点を学ぶ。
6. 事例分析の意義や方法、ケースカンファレンスについて学ぶ。

【保育の対象の理解に関する科目】

<科目名>

教育心理学（講義・2単位）

<目 標>

1. 養護とともに保育を構成する要素としての教育の過程における心理学的法則や事実の理解及び、より効果的な保育を展開するために教育心理学の基本的事項について理解させる。
2. 生涯発達の観点により幼児期から青年期までの保育と教育の関連を把握できるようにするとともに、子ども一人一人の発達に対応した教育的対応についての理解を深めさせる。
3. 子育て支援の一環としての保育における教育的要素に関する相談に対応できる能力を養成する。

<内 容>

1. 教育心理学とは何か
 - (1) 教育心理学とは何か
 - (2) 保育における教育心理学
 - (3) 教育心理学の方法
2. 発達
 - (1) 生涯発達の発達観
 - (2) 発達段階と個人差
 - (3) 発達課題と個人差
3. 学習
 - (1) 学習の過程
 - (2) 学習の理論
4. 知的能力と人格
 - (1) 知能と学力
 - (2) 知能の測定
 - (3) 知能と創造性
5. 集団と個人
 - (1) 保育における集団と個人
 - (2) 集団の種類と構造
 - (3) 集団の役割とその指導

発達心理学の1.3.4へ（3学習
は教育原理の5へも移行）

教育原理の5へ

【保育の対象の理解に関する科目】

<科目名>

精神保健（講義・2単位）

<目 標>

1. 小児の精神発達の様相とそれを促す適切な保育のあり方を理解させる。
2. 虐待、いじめ等の心の健康障害の実態を認識し、保育における適切な対処のあり方について理解させる。
3. 単に精神医学的対応のみならず、小児各時期の健全育成を基盤とした保育の必要性を理解させる。
4. 小児の心の健康に関して家庭・地域・保育の連携の重要性を理解させる。

<内 容>

1. 小児の精神機能発達と精神保健
 - (1) 精神発達と脳神経系器官の成熟
 - (2) 心の健康に影響する要因
2. 小児の生活環境と精神保健
 - (1) 家族関係と小児期の精神保健
 - (2) 文化・教育環境と小児期の精神保健
 - (3) 社会環境と小児期の精神保健
3. 小児各時期の精神保健
 - (1) 身体と精神保健の関係
 - (2) 乳児期の精神保健
 - (3) 幼児期の精神保健
 - (4) 学齢期の精神保健
 - (5) 思春期の精神保健
4. 小児の心の健康障害
 - (1) 小児各時期の精神障害の特徴
 - (2) 心の健康障害と小児の養育のあり方
5. 小児期の精神保健活動
 - (1) 精神医学と保育の連携
 - (2) 子育て支援対策と心の健康づくり
 - (3) 児童福祉施設における心のケア
 - (4) 地域精神保健活動と保育

小児保健の1.へ

小児保健の2.へ

小児保健の5.へ

小児保健の7.8へ